

# 岩手の馬文化

## Horse culture in Iwate

1K06A147

指導教員 主査 寒川恒夫先生

高橋 悠

副査 矢島忠明先生

### 【緒言】

古来、岩手は馬産地として知られ、南部藩においても産馬は藩の重要政策であり産馬奨励が行われてきた。また、日清、日露戦争を機に岩手県は軍馬の生産もさかんになった。今後私がこの文化を守り、継承していく上で、これらを詳しく調査することが必要であると考え。よって本論文は馬産地となった背景から、チャグチャグ馬コと岩手競馬を取り上げ、調査し紹介することを目的とする。

### 【第一章 馬産地岩手の背景】

【1】歴史 東北地方の北部に馬が導入されたのは五世紀のことだと言われている。江戸時代、南部藩の治世では南部の九牧の名が知られるようになる。明治維新後の岩手の産業復興にも馬産が大きな柱の一つになっていた。近年は農耕が機械化するようになり、馬を飼育する農家は減少しているが、祭りや言い伝えが残っている。

【2】南部曲り家と馬との暮らし 南部藩の農家は南部曲り家という、土間を隔てて居間と厩が続いた「くの字」型の平面構造の住居で生活していた。これは、一日六度の飼葉を与えなければならないという、馬飼養を中心とした生活パターンが生み出した住居である。

【3】馬の市 みちのくの秋の名物行事であった南部二歳駒のセリソ氏一。はじまりは寛文から元禄年間といわれ、領内二十六ヶ所で代官所が管理して行っていた。

【4】岩手の馬信仰 岩手県に蒼前神と駒形神という馬の神が祀られている神社が多くある。ま

た、木や竹に着物を着せた二体一組のオシラマと言われる神の置物を家に置いておく習わしや、馬ッコつなぎと呼ばれる藁で二頭一組の馬を作り、田の水口などにたて、豊作を願う行事がある。

### 【第二章 チャグチャグ馬コ】

【1】歴史 農家の人々は年に一度健康安全を願い、鬼越蒼前神社にお参りしていた。後に小荷駄をつけた馬を曳いて参拝した者があらわれ、たちまち流行した。現在のようにパレードするようになったのは、昭和五年秩父宮殿下が来県されたからだといわれている

【2】内容 チャグチャグ馬コの祭りはまず、鬼越蒼前神社八遺伝の広間で祈願際が行われる。そして盛岡八幡宮を目指し行進が始まる。そして、盛岡八幡宮に到着したら表章式が行われる。また鬼越蒼前神社では蒼前太鼓というものが行われ、祭りを盛り立てる。

【3】祭りを彩る チャグチャグ馬コに参加する馬は、祭りが近づく和家人は念入りに準備をする。馬が着用する装束はそれぞれ順序がある。ヒキコも、男性、女性、子どもと決まった服装があり祭りを一層華やかにする。

### 【第三章 岩手競馬】

【1】歴史 岩手近代競馬のスタートは、岩手県馬産の父と称される上田農夫や一条牧夫らが中心になって県調馬会社を設立したことに始まる。そして様々な環境整備をし、現在の「オーロパーク」ができた。

【２】県との関わり 昭和二十三年の七月に競馬法が公布されると、かつて全国に誇った馬産地の岩手県では収益の一部を県財政に役立てようとした。岩手競馬は健全なスポーツとして成長した。また収益の面からみても県の財政の確立に寄与している。

【３】活躍した名馬 岩手競馬のレースで活躍し、また中には中央競馬のレースに出場し、岩手競馬を盛り上げた、スィフトセイダイ、トウケイニセイ、グレートホープ、メイセイオペラ、トーハウエンペラーというサラブレッドを紹介する。

#### 【まとめ】

岩手県は特に色濃く馬と関わってきた地域の一つである。多くの人々と馬が作り出したこの文化を継承していくことが、私たち県民の義務である。私も県民の一員としてこの馬文化を守っていきたい。